

2019年度の廃棄物の最終処分量および再資源化率に関するフォローアップ調査結果

1. 削減目標

当会では、1996年に「日本ゴム工業会環境保全に関する自主行動計画」を制定しましたが、このうち循環型経済社会の構築に関して、以下の目標を設定し、実現に取り組んでいます。

- ① ゴム製品製造工場から発生する廃棄物について、減量化、再資源化、適正処理を推進し、最終処分量を2019年度の実績をベースにして、2020年度までに95%以上削減する。
- ② 資源循環の質を高める取組として2020年度における廃棄物の再資源化率70%以上を目標に取り組む。
- ③ 海洋プラスチック問題への対応およびプラスチック資源循環の推進を目的として、「2030年度目標：廃プラスチック類の再資源化率85%以上を維持する」を定め、実現に取り組む。

※③は、2020年2月に目標として追加設定しました。

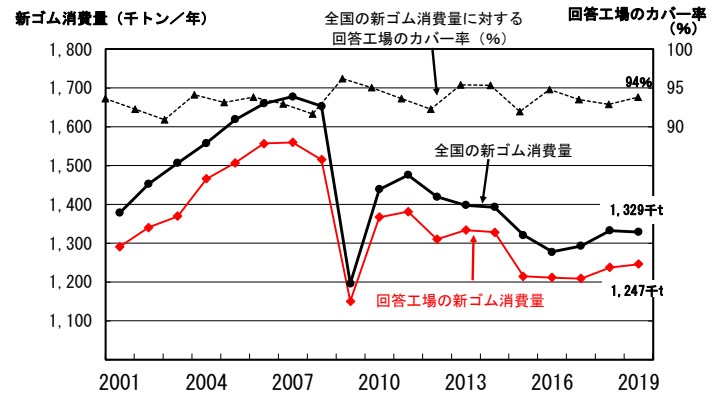
2. 新ゴム消費量およびカバー率の推移

回答工場の新ゴム消費量を基に全国の新ゴム消費量に対するカバー率を算出し、全国推計値として補正しています。2019年度のカバー率は94%となりました。

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
調査回答工場数	156	149	133	133	140	139	139	146	144	
回答工場の新ゴム消費量(千ト)	1,291	1,341	1,370	1,466	1,508	1,557	1,560	1,515	1,151	
新ゴム消費量(千ト)※	1,379	1,453	1,507	1,558	1,619	1,660	1,678	1,653	1,196	
新ゴム消費量から見た回答工場のカバー率	94%	92%	91%	94%	93%	94%	93%	92%	96%	

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
調査回答工場数	129	136	139	130	139	139	141	138	130	124
回答工場の新ゴム消費量(千ト)	1,367	1,382	1,310	1,334	1,329	1,215	1,212	1,210	1,238	1,247
新ゴム消費量(千ト)※	1,439	1,476	1,420	1,398	1,393	1,321	1,278	1,293	1,333	1,329
新ゴム消費量から見た回答工場のカバー率	95%	94%	92%	95%	95%	92%	95%	94%	93%	94%

※全国の新ゴム消費量は、2000年度までは経済産業省の生産動態統計、2001年度以降は当会策定の「新ゴム消費量」(1~12月)を採用している。

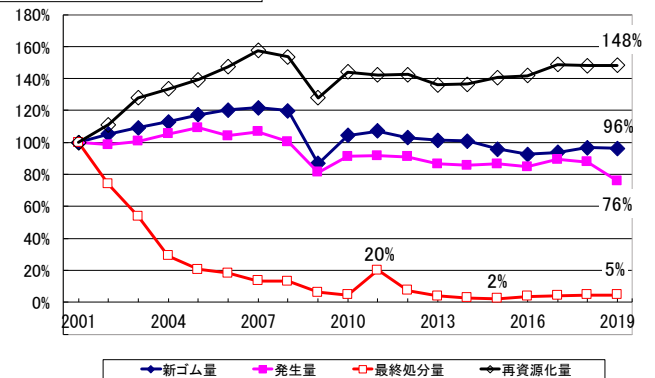


3. 廃棄物の発生量および処理方法別処理量の推移

(単位：ト/年度)

	発生量	最終処分量	再資源化量	
			燃焼	売却量
2001年度	230,963	46,198	109,829	25,635
2002年度	227,854	34,112	121,977	29,784
2003年度	232,491	24,840	140,576	27,040
2004年度	243,192	13,404	146,497	35,451
2005年度	252,426	9,531	152,826	38,785
2006年度	240,680	8,411	161,889	42,698
2007年度	246,459	6,150	173,015	44,033
2008年度	232,235	6,037	168,730	39,833
2009年度	187,554	2,908	140,379	32,931
2010年度	207,740	2,115	158,253	38,023
2011年度	211,690	9,241	156,154	40,997
2012年度	209,968	3,436	156,471	40,255
2013年度	199,815	1,775	149,381	43,413
2014年度	197,628	1,247	149,996	44,750
2015年度	200,208	1,045	154,530	43,689
2016年度	195,796	1,644	155,826	42,411
2017年度	206,201	1,896	163,287	44,889
2018年度	202,668	2,103	162,665	49,030
2019年度	175,360	2,119	162,910	45,702
2019年度と 比べた増減	▲24.1%	▲95.4%	48.3%	78.3%

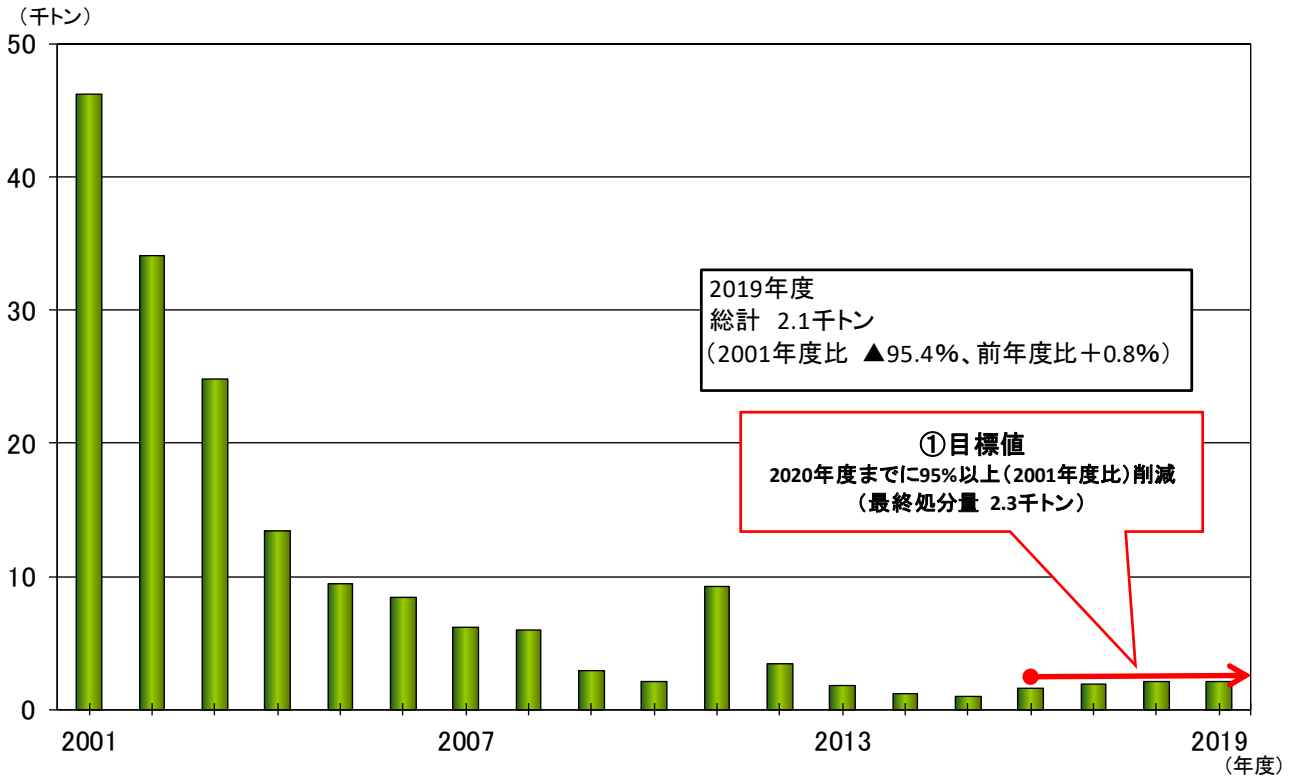
2001年度を100とした場合の推移



注)

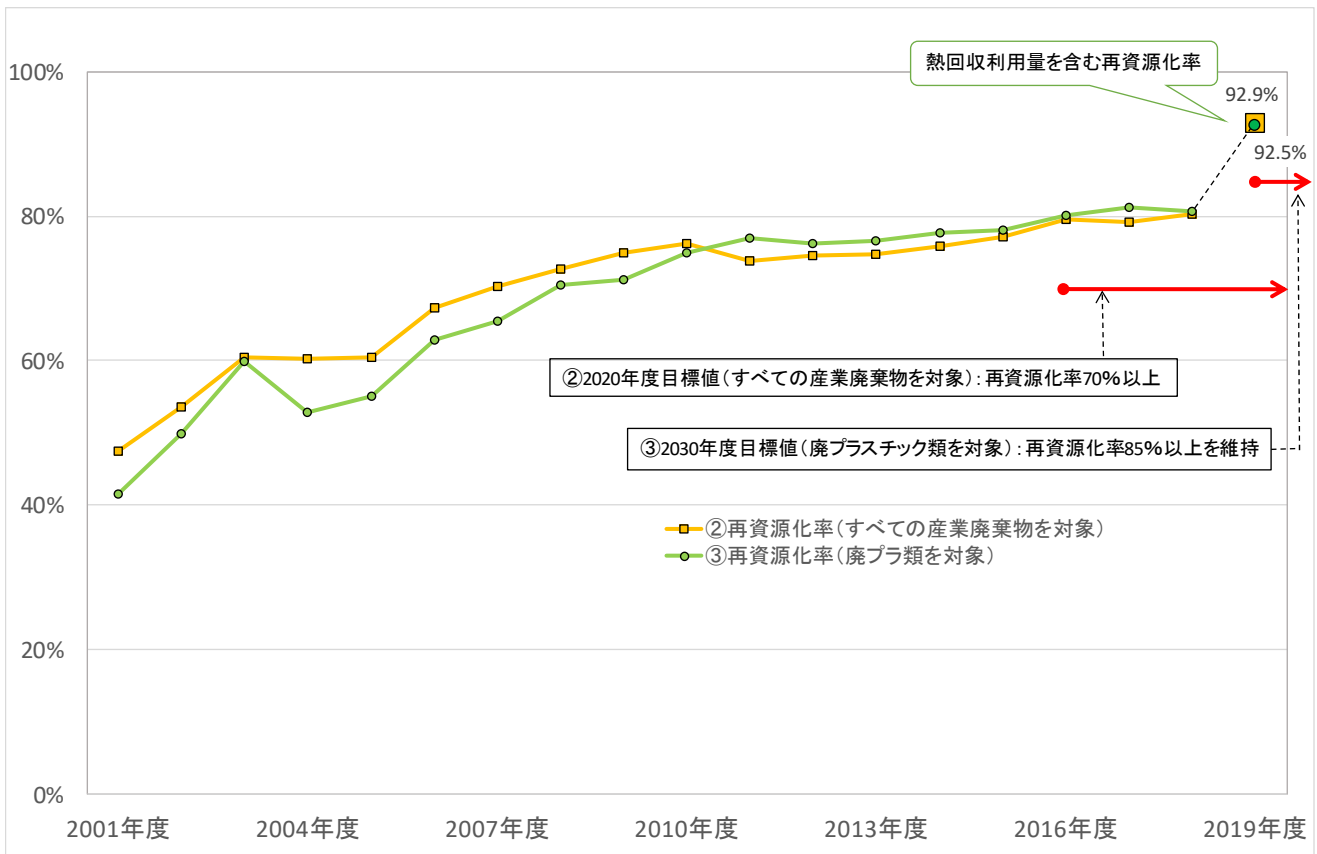
- ①発生量…ゴム製品製造工場から発生した廃棄物量(製品廃棄物を含む)。
- ②最終処分量…廃棄物を直接最終処分した量および自社で焼却等の中間処理をした後の残渣を最終処分した量の総量。
- ③再資源化量…廃棄物を再資源化した量および自社または外部で中間処理した後の残渣を再資源化した量の総量とし、2019年度より有効に熱回収されているもの(燃料利用も含む)を含める。
- ④発生量等の数値は、ゴム工業会会員企業を対象に行った調査結果を新ゴム消費量に基づくカバー率で補正し、全国値として推計している。
- ⑤最終処分量について、2011~2014年度にかけて震災の影響があった(影響を除いた最終処分量は2001年度比で、それぞれ2011年度▲97.1%、2012年度▲97.4%、2013年度▲97.5%、2014年度▲97.8%となる)が、2015年度以降はなかった。
- ⑥焼却処理量は、再資源化に着目した調査項目の見直しにより、2019年度から掲載していない。

4. 最終処分量の推移



5. 再資源化率の推移

2019年度の実績から、有効に熱回収されているものは(燃料利用も含む)再資源化に含めている。



再資源化率 = 再資源化量 / 発生量

6. まとめ

- ①全国の新ゴム消費量※は1,329千トン（前年度比-0.3%）、回答工場分の新ゴム消費量は1,247千トン（同+0.7%）となり、カバー率は94%となりました。
- ②廃棄物発生量は、175,360トン（前年度比-13.5%）と減少しました。
最終処分量は、2,119トン（前年度比+0.8%）、目標の基準年度である2001年度に対し95.4%の削減となり、横ばいとなりました。
- ③廃棄物発生量に占める再資源化量は、162,910トンで再資源化率は92.9%となりました。そのうちの廃プラスチック類の再資源化量は、111,281トンで再資源化率は92.5%となりました。
この結果、2019年度は最終処分量削減率、再資源化率（産業廃棄物全体、廃プラスチック類）ともに削減目標を達成しましたが、引き続き、目標に向けて活動を推進していきます。

※ 日本ゴム工業会策定の「新ゴム消費量」による。